

7月は『社会を明るくする運動』強調月間でした。この行事の一環として、児童・生徒の皆さんへ作文を募集したところ、多くの作品が寄せられました。

厳正な審査を行い、受賞作品が決定しましたので、優秀・最優秀賞を受賞した作品を紹介します。(最優秀賞のみ全文掲載)

最優秀賞

小学生の部

重安小学校 6年 小松 良明

『みんなで助け合って犯罪のない社会に』

中学生の部

秋芳北中学校 3年 阿武 彩香

『犯罪のない社会をめざして』

優秀賞

小学生の部

綾木小学校 6年 磯部 菜央 『犯罪のない社会へ』

大嶺小学校 6年 増田 珠直 『私の大好きなちよつと年上の友達』

中学生の部

於福中学校 2年 草場 大彰 『みんなは一人のために』

伊佐中学校 1年 堤 幸祐 『社会を明るくするために』

問合せ先 地域福祉課(☎08337)525228

みんなで助け合って
犯罪のない社会に

重安小学校 6年

小松 良明

ぼく達の学校には、児童見守り隊というのがあります。児童見守り隊とは、ぼく達が下校するとき、一緒に歩いて

をしました。2か月の間、入院をしてとてもつらかったので、早く家に帰りたいとずっと思っていました。

その2か月後、宇部市で事件が起こりました。下校と中の小学生が、見知らぬ男の人におそわれたのです。

これらのことをきつかけに、校長先生が地域の敬老会の方にお願いをされ、また、敬老会の方々も、ぼく達のために、こ

ろよく引き受けてくださり、児童見守り隊ができました。毎週水曜日、下校時この

ずい分前から、たくさんの方が来られ、ぼく達と一緒に帰ってくださいます。ぼくは、ありがたいと思います。見守り隊の方が一緒にいるから、悪い人も近寄りにくいだろうし、もし来たとしても、子どもたちだけではないので、心強いです。また、事故にもあ

いにくくなります。ぼくは、もう二度と交通事故にはあいたくありません。だから、見守り隊の方が一緒に帰ってくださるのは、とてもうれしいです。水曜日以外の日は、ぼくが友達と別れて一人になる所まで、母がむかえに来てくれます。帰りにぼくが一人になるのが心配だからだそうです。兄が1年生のときに、帰りに一人になったのがこわくて帰れなくなったことがきっかけでした。そのときは、たまたま通り

かかった宅配便の親切なおじさんが、家まで連れて帰ってくださったので助かったそうです。母が、仕事で来られないときは、祖父母がむかえに来てくれて、ぼくが一人にならないようにしてくれています。これも、とてもありがたいことだと思

います。犯罪のない社会をつくるために大切なことは、地域の人や家族など、たくさんの方が助け合うことだと、ぼくは思います。ぼくは今、たくさんの人に見守られて、助けられています。ぼくが住んでいる重安のような地域だったら、犯罪は

きつと減ると思います。ぼくにはまだ、たいしたことではありません。でも、ぼくの学校では、年に3回、ボランティア活動で、地域のゴミ拾いをしています。また、チャレンジ目標に「元気にあいさつ・返事」というのがあって、学校の中だけでなく、地域の方に出会ったときにも、進んであいさつをするようにしています。そうすれば、地域の方も笑顔であいさつを返してくださり、仲良くなります。みんなが仲良くなることも犯罪のない社会をつくるために、大切だと思います。これからも、ぼく達にできることを続けて地域の役に立ち、みんなが助け合うことで、犯罪のない地域社会になったらいいなと思います。

犯罪のない社会をめざして

秋芳北中学校 3年

阿武 彩香

「社会を明るくするために何が大切か」と考えた時、私

がまず一番に考えたのは、犯罪のない社会と犯罪からの立ち直りが後押しできる社会ではないかと考えました。そのために、まず必要なことは、犯罪を行ってしまった人を周りの人たちがしっかりと見守り、導くことだと思います。なぜこう考えたかというところ、それは私の過去の経験から見えてきたことだからです。

私は、小学校の頃、家で宿題を全くせず、忘れてばかりに

対して、「いけないことだ」と思う気持ちもありもっていませんでした。だから「やらな

